

「鳥羽伏見の戦い」絵巻
超高精細デジタル化 及び
歴史発見コンテンツ製作

Ultra High Resolution Digital Technology and Learning
the History of Japan Modernization using
the image-contents from the Scrolls of Toba Fushimi War

令和2年
会場：京都大学時計台記念ホール

9月24日

Thu
13:00
|
16:20

September 24th,
Clock Tower Memorial Hall,
Kyoto University

これまで過去20年間近く、独自の超高精細デジタル技術を開発し、最先端の機械、ソフトウェアなどを用いて、国内外で文化財の保存保護活用を行ってきた。

令和2年度、文化庁リビングヒストリー事業の一環として、超高精細デジタル技術及びVR、AR映像技術を使って、現存する文化財「**戊辰戦争絵巻**」をコンテンツの軸として、調査研究、歴史検証、社会の広範にわたる紹介活動を行う。

幕末の歴史は日本史において、重要な出来事であるが、日本国内でもロマンス化された史観が支配的であり、国内外の一般の人々の中で十分認識されているとは言えない。絵巻に残された歴史を、最新のデジタル技術と、日本の伝統芸（講談）を融合したコンテンツとして展開し、**時代が大きく動いた幕末維新の歴史を体感できるプログラムを試みる。**本プロジェクト公開に先立って、ミニシンポジウムで、現状報告及び専門家の方々の意見を聞く機会を設けた。

世界文化遺産仁和寺が所蔵している、**鳥羽伏見の戦いを描いた「戊辰戦争絵巻」**（39場面、モノクロ）を超高精細（1200dpi以上）でデジタル化し、それをもとに、絵巻に描かれた場所の関係者や有識者による歴史資料調査が進行中である。

絵巻に関連する京都・鳥羽・伏見、淀、八幡・橋本・大阪のエリアの、当時から現在までの関連資料を丁寧に取材している。

初年度プログラム①では、様々な歴史的瞬間をとらえた各場面の中から厳選し、絵巻のデジタル加工と共に、アニメーション化など映像化や伝統芸とのコラボレーションを通し、リアルで分かりやすい特別な公開体験会を実施する。

Program

受付 12:40

休憩 10分 Break

前半
13:00~15:00

1. 開会挨拶 Opening address

文化財とデジタル技術のお話

京都大学名誉教授

（一社）先端イメージング工学研究所代表理事

井手亜里

2. 事業説明 文化庁 文化資源活用課 水野歌子 Program report

文化庁 地域文化創生本部 村上佳代 Program report

3. 講演 総本山仁和寺 執行長 吉田正裕 Lecture

4. 講演 霊山歴史館 副館長 木村幸比古 Lecture

5. 講演 城南宮 宮司 鳥羽重宏 Lecture

後半
15:10~16:20

6. 講談 旭堂南春 Kodan storytelling

講談（一部）を英語で披露

7. 発表 Progress report

（一社）先端イメージング工学研究所調査員の
現状報告

8. 閉会挨拶 Closing address

登録連絡先
Registration

office@aitrec.jp （事務局）

メールで必ず事前登録（氏名 / 所属 / 連絡先 / 電話番号）
をお願いします。

主 催：（一社）先端イメージング工学研究所

事業名：文化庁令和2年度 LivingHistory（生きた歴史体感プログラム）促進事業

協 力：世界文化遺産仁和寺、霊山歴史館、城南宮、星野画廊、DMOKYOTO